

「赤木名小学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立赤木名小学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生（計113名）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成28年5月～9月

（2）発表の日時・場所

平成28年10月2日（日）赤木名小学校運動場「秋季大運動会」

平成28年11月12日（土）赤木名小学校体育館「学習発表会」

平成28年12月11日（日）太陽が丘総合体育館「笠利まちおこしフェスティバル
『伝統芸能発表』」

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

（1）名称

赤木名校区八月踊り（あかきなこうくはちがつおどり）

（2）由来

五穀豊穰，豊年満作を祈り旧暦の八月に踊られるようになったと言われている。また，先祖への感謝を伝える意味も込められている。幼い頃より大人と一緒に踊っているうちに，自然と踊りを覚え現在に至っている保存会のメンバーの方も多。男性と女性がそれぞれに役割を担い，卓越した技術で唄い，踊る郷土芸能である。

（3）構成等

4名の学校応援団の方々が中心になって児童に伝承活動を行っている。また，秋季大運動会の時期になると，集落の区長をはじめとする，八月踊り保存会も加わり唄い方や三味線の弾き方，踊り方等を具体的に指導していただいている。祝つけに始まり，さんだまけまけ・浜千鳥・赤木名観音堂・六調の順に踊っていく。学習発表会や笠利まちおこしフェスティバルでは，「赤木名観音堂」を児童だけで堂々と発表した。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年5月に，担当が学校応援団に連絡を取り，本年度の指導者態勢を整える。学校応援団の都合がよい日程を調整して，総合的な学習の時間として活動を位置付ける。

担当や教頭が随時連絡を取り合い、活動が充実するようにサポートしていく。特に、「赤木名観音堂」は、歌唱と踊りを児童だけで発表するため、9月末までにある程度演出の仕方を完成させて、本格的な発表の準備に取り掛かるようにしている。学校応援団の皆様は、本校の児童に対しいつも懇切丁寧な指導をしてくださりありがたい。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

楽器や歌唱について学ぶ活動では、初めに必ず指導者に自己紹介し児童と親しくなるようにしている。児童は「〇〇先生」と呼ぶようになり、分からない点を積極的に質問できるようになってくる。

八月踊りの練習の実際では、約30名の学校応援団の方が集まり、各学年に数名ずつ入り、踊りを伝承していただく。運動会では、約50名程の学校応援団が中心となり、集落民にも呼びかけ壮大なスケールの八月踊りが行われる。

このような経験を通して、児童は「八月踊り」を身近なものに感じるようになっていく。

7 取組の様子



総合的な学習の時間「チヂン・三味線の練習」



総合的な学習の時間「八月踊りの練習」



運動会「八月踊り」



学習発表会での発表

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【5年生児童】

大きな舞台での発表だったので緊張しましたが、間違えずに踊れてうれしかったです。

【6年生児童】

はじめて自分たちだけで発表でき嬉しかったです。学習発表会もまちおこしフェスティバルも、大勢の地域の方がすごく喜んでくださって感激しました。

【6年生児童】

小学校で踊るのは今年で最後になるけれど、随分と上手に踊れるようになってうれしいです。いつもやさしく教えてくださる学校応援団の方に感謝したいです。

【保護者】

地域に伝わる伝承活動を直接、地域の指導者に教えていただける点ありがたいです。運動会での八月踊りは圧巻で、私たちもしっかりと受け継いでいかなければならないことだと感じました。

【保存会から】

本年度は、大きな舞台での発表が2回もあって教えがいがありました。素直に練習に取り組み、どんどん踊りや唄が上達してくるのでうれしいです。この踊りはいつまでも受け継いでいく必要があると改めて実感しました。

【地域の方から】

毎年行っている運動会での八月踊りはこれからも大事に受け継いでいきたい。なかなか小学校に来ることができない方も、八月踊りを踊ることで心がつながっている感じがする。